

展示資料一覧

No.	資料名	出典等
1	東京上野高崎街眞景	高崎市立中央図書館蔵
2	私立高崎図書館平面図	『高崎図書館館報』創立号 (高崎市立中央図書館蔵)
3	私立高崎図書館の開館式	高崎市立中央図書館蔵
4	私立高崎図書館の館長及び評議員	高崎市立中央図書館蔵
5	私立高崎図書館(明治43年)	高崎市立中央図書館蔵
6	男子閲覧室	『高崎図書館館報』創立号 (高崎市立中央図書館蔵)
7	旅行案内高崎市略図	高崎市立中央図書館蔵
8	高崎号機上撮影 商工会議所公会堂ヲノゾム	伊藤富太郎氏撮影複製写真 (高崎市立中央図書館蔵)
9	高崎市公会堂	『高崎市勢要覧』昭和14年版 (高崎市立中央図書館蔵)
10	昭和9年「高崎市街全図」(部分)	高崎市立中央図書館蔵
11	高崎図書館発達状況並御成婚記念新築図書館大要	高崎市立中央図書館蔵
12	高崎図書館(昭和10年)	「高崎図書館絵葉書」 (高崎市立中央図書館蔵)
13	男子閲覧室と児童室	「高崎図書館絵葉書」 (高崎市立中央図書館蔵)
14	高崎図書館一覧	高崎市立中央図書館蔵
15	武徳殿	『高崎市勢要覧』昭和14年版 (高崎市立中央図書館蔵)
16	C I E 東京図書館ウッド館長と小島弘一市長	高崎市立中央図書館蔵
17	高崎図書館(昭和24年頃)	高崎市立中央図書館蔵
18	「高崎市立図書館報」復刊第一号	高崎市立中央図書館蔵
19	高松町の高崎市立図書館	高崎市立中央図書館蔵
20	末広町の高崎市立図書館	高崎市立中央図書館蔵
21	移動図書館「はばたき号」	伊藤富太郎氏撮影写真 (高崎市立中央図書館蔵)

※展示資料の一部は、高崎市立図書館ホームページでも閲覧できます。

<https://lib.city.takasaki.gunma.jp/viewer/info.html?id=580>

高崎市立中央図書館企画展

「高崎市立図書館の歩み」展示パンフレット

平成31年3月28日発行

編集・発行 高崎市立中央図書館 図書担当・市史担当

高崎市立中央図書館企画展

# 高崎市立図書館の歩み

【展示期間】3月28日(木)～5月28日(火)

※開館時間 午前10時～午後8時(土・日・月曜日、祝日、  
4月30日(火)・5月2日(木)は午後5時まで)

※休館日 4月10日(水)～16日(火)、24日(水)

【展示場所】高崎市立中央図書館 5階 展示コーナー

## 図書館百年にあたって

高崎市立中央図書館長 今井 伸一

明治維新による近代化の波は、鉄路の延伸とともに郷土高崎にも訪れ、その開通式典における天皇の行在所として建設された「春靄館」を出発点として、図書館は産声をあげました。

当初は高崎市教育会が運営する私立図書館として出発しましたが、市に寄贈され市立の図書館になってから、今年には100年の節目を迎えます。

この間、図書館は数度の移転を経て、高崎市が中核市となった平成23年に、現在地に新築されました。当時の技術の粋である自動出納書庫や自動貸出機などを備えた最先端の施設となり、日々、約2,000人の皆様にご来館いただいております。

今回の展示は、図書館の歴史に触れていただけるように、高崎市立図書館の歩みとともに、所蔵する写真なども展示いたしましたので是非ご覧ください。

昨今はインターネットや様々なメディアの発達により、資料を簡単に検索したり予約したりすることができるようになりました。

しかし、図書館で書棚をゆっくり巡り、本を手に取り、ページをめくり、新たな本や資料を発見されることも余暇の過ごし方として有意義ではないでしょうか。

今後も、皆様のご来館、ご利用を心よりお待ちしておりますとともに、図書館が皆様に愛され続ける図書館でありますよう、スタッフ一同努力してまいります。

高崎市立中央図書館



■ 私立高崎図書館（明治43年）



■ 高崎図書館（昭和10年）



■ 高崎市立図書館（昭和41年）



■ 高崎市立図書館（昭和59年）  
（平成18年より高崎市立中央図書館）



■ 高崎市立中央図書館（平成23年）

## 〔高崎市立図書館略史〕

明治42年(1909)7月15日、高崎市教育会は図書館設立の趣旨書を発表しました。賛同者の協力を得て、翌年9月26日、私立高崎図書館を本町甲179番地に開館しました。

図書館の建物は、明治17年(1884)に行われた上野-高崎間の鉄道開業式に際して明治天皇の行在所として用意された春靄館(しゅんあいかん)が利用されました。

大正6年(1917)には、高崎市公会堂建設に伴い図書館は隣接する西側の敷地へ建物を移築し移転しました。

大正8年(1919)、高崎市教育会は現状の設備では時代の要求に応えることができないことを理由として、図書館を高崎市へ寄贈し、4月1日より市立の高崎図書館となりました。その後、新しい図書館が建設され、昭和10年(1935)11月26日に落成式が行われました。

太平洋戦争が激化する中、東京鉱山監督局の疎開のために建物を引き渡し、昭和19年(1944)1月6日に図書館は寄合町救世軍跡へ移転。さらに昭和21年(1946)3月11日には高崎公園内武徳殿へ移転し、元の場所に戻ったのは昭和23年(1948)5月7日でした。

戦後、図書館法の成立に伴い、昭和25年(1950)10月1日、高崎市立図書館条例を施行。この時、高崎市立図書館と名称を変更しました。

昭和41年(1965)2月1日、図書館は高松町1番地(現在のもてなし広場)の高崎市役所隣へ移転。さらに昭和59年(1984)7月7日には、市制80周年記念事業として末広町に高崎市総合文化センターが整備され、図書館もその中へ移転しました。図書館の建物は、旧県立高崎女子高校の校舎を再利用したものでした。

平成18年(2006)1月23日、市町村合併に伴い高崎市立中央図書館と名称を変更し、その後2度の合併を経て、箕郷・群馬・新町・榛名・山種記念吉井図書館が設置され、現在では中央館と5つの地域館による体制となっています。

平成23年(2011)4月1日、高松町に新たに建設された総合保健センター内へ図書館は移転しました。新図書館への移転にあわせてIT化を進め、図書館資料にはICタグを貼付し、自動貸出機や自動出納書庫が導入されました。平成30年(2018)3月31日時点での市立図書館全体の所蔵資料数合計は図書1,039,367点(内中央館638,377点)、視聴覚資料109,619点(内中央館85,950点)に及びます。

## 〔高崎市立図書館略年表〕

年(西暦)	できごと
明治42年(1909)	7.15 高崎市教育会、図書館設立の趣旨書を発表。
明治43年(1910)	9.26 高崎市教育会、本町の春靄館に私立高崎図書館を開館
大正6年(1917)	高崎市公会堂建設に伴い、図書館を西側隣接地(成田町地内)へ移転
大正8年(1919)	3 高崎市教育会から高崎市へ図書館寄贈 4.1 市立の高崎図書館となる
昭和5年(1930)	4.1 「高崎図書館々外帯出規程」が定められる
昭和6年(1931)	11.24 高崎市会で図書館改築案提案
昭和10年(1935)	4.8 新規に取得した土地(成田町1番地)に新図書館建設工事起工 10.15 新図書館竣工 11.26 新図書館落成式、開館
昭和19年(1944)	1.6 寄合町救世軍跡に移転
昭和21年(1946)	3.11 高崎公園内の武徳殿に移転
昭和23年(1948)	3.1 高崎図書館内にCIE図書室設置(CIE:群馬軍政部の民間情報課) 5.7 図書館、元の建物に戻り開館
昭和24年(1949)	12.6 SCAPCIE東京図書館高崎分館設置 (SCAP:連合国軍最高司令官、CIE:民間情報教育局)
昭和25年(1950)	10.1 高崎市立図書館条例が施行され、高崎市立図書館と改称
昭和27年(1952)	4.28 SCAPCIE東京図書館高崎分館、東京アメリカ文化センター高崎分館へ移行
昭和39年(1964)	6 自動車文庫による広域サービスを開始
昭和41年(1966)	2.1 新図書館(高松町1番地)へ移転
昭和45年(1970)	8 新しい自動車文庫「はばたき号」サービス開始
昭和59年(1984)	7.7 新図書館(末広町25番地1)へ移転
平成18年(2006)	1.23 市町村合併に伴い、高崎市立中央図書館と名称変更。箕郷・群馬・新町図書館設置 10.1 市町村合併に伴い、榛名図書館設置
平成21年(2009)	6.1 市町村合併に伴い、山種記念吉井図書館設置
平成22年(2010)	12 移動図書館サービス事業の廃止
平成23年(2011)	1 移動図書館廃止に伴う代替事業として、4公民館(長野・中川・大類・寺尾)を拠点とした予約資料の受け取り及び返却を開始 4.1 中央図書館、現在の高松町5-28へ移転
平成28年(2016)	2.3 レファレンス共同データベース事業における成果と寄与に対する国立国会図書館よりの「御礼状」を中央図書館が受領(県内初)
平成30年(2018)	4.23 群馬図書館が子供の読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受ける
平成31年(2019)	4.1 市立図書館となって100周年